
精神的ブラックホール

よわむし

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

精神的ブラックホール

【Nコード】

N2441P

【作者名】

よわむし

【あらすじ】

さくつと読めるショートショートでございます。

「なあ、最近、オレなんかおかしいんだよ。」

もう付き合って2年にもなる彼氏のナオキが、ファミレスでの食事中に、突然そんなことを言い始めた。

「なんかさ、目に入ってくるもの、全部が欲しくなるんだよ。」

「え。じゃあアタシも？」

私は元々、ナオキのそういう

独占欲の強いところに惚れて付き合っているのだ。

もちろんYESって答えてくれることを

期待したのだけど、ナオキはよほど真剣らしく、

あっさりその質問はスルーされた。

「服とか車とかなら分かるんだけどさ、

このメニューに載ってるものっていうより、

このメニュー自体とか、割り箸とか、爪楊枝とか、あと…そうだな。この机やソファーも欲しいな。」

ナオキは独占欲とか、物欲がかなり強い。

子どもの頃は、いろんな玩具を買って欲しくて、よくダダをこねていたらしいが、

確かにナオキの言う通り、それは変だ。

「欲しいけどさ。これ、持って帰れないじゃん。」

そう思うと余計に欲しい気持ちが強くなって、
どんどん他のものまで欲しくなるの。」

「なんだか、まるでブラックホールみたいね。」

「うーん。言われると確かにそうだな。」

そんな話を最後に、私はナオキとファミレスを後にした。
そこから、私は急に仕事が忙しくなり、しばらくオナキとは会えな
かった。

向こうもあれから連絡もないし、特に問題もなかったのだろうと思
っていたら、

突然、警察から連絡が入った。

ナオキが自室で変死していたらしい。

自分の部屋のことを全部自分に乗せて、
抱きかかえるようにして窒息死していたらしい。

私は警察から事情聴取を受けた。

ナオキの最近の様子とか、周囲に恨まれるようなことはなかったか
とか。

「ナオキは、精神的ブラックホールになったんだと思います。」

私はこれだけ答えて泣き出した。

後のことはよく覚えていない。

それから数年して、

私はまた別な人と付き合い始めた。

あれから独占欲の強い人が怖くて、
今付き合っている人は、博愛主義のとても優しい人だ。

その彼と、食事に出かけたとき、
またその彼が変なことを言い始めた。

「最近、僕、おかしいんだよね。
なんか、自分の持つてるもの、
全部人にあげたくなるんだよ。
服とか、サイフとか、
あとは、爪とか髪とかも。」

やれやれ。今度の男は精神的ホワイトホールか。

私はその彼とさっさと別れることを決めた。

(後書き)

頭の中で、ネタになりそうなものは多々あれど、それをきちんと最後まで文章にするのが難しいですよね。

ああ、時間が欲しい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2441p/>

精神的ブラックホール

2010年12月1日15時18分発行